

第3回

# 百万遍談議

## 「なにげないひとことがノーベル賞に」

かつて百万遍周辺の喫茶店では、「読書会」と称して、違う分野の学生が集まってひとつのテーマで議論をする姿がしばしば見られました。コーヒー1杯で数時間いても店の人は気にもせず、ひたすらコップにお水をついでくれたものです。あるいは「下宿」に集まってなされた議論は、同じ下宿の他学部の人だけでなく、他大学の学生も加わって、それこそ朝まで延々と続けられたというのが茶飯事でした。

最近ではコロナの影響もあり、学生同士の議論というものが影をひそめているように思います。加えてそもそも喫茶店自体がどんどん少なくなっていきます。そこで、今春始動した京都大学人と社会の未来研究院では、往時に盛んであったそんな議論の場を、「百万遍談議」として復活させようと思い、このような企画を立ててみました。京都大学の学部学生であれば、学部や学年は問いません。

授業ではありませんので、なにかこうしなければいけないという義務はなく、単に興味があるから参加して、人の話をきき、自分の考えを述べる。それだけです。毎回のテーマに関して、あらかじめ知識が必要となるわけではありません。唯一お願いするのは、毎回提示される「書物」あるいは「短文」を読んできること、それだけです。

「人はこんなことを考えているんだ」ということを知るだけでも楽しいですし、さらには、自分の考えを人にきいてもらうことの楽しさも、大学生に与えられたある種の特権です。気軽な気持ちで参加してくださいませよう。タイトルの「なにげないひとことがノーベル賞に」というのは、この場での出会いが、文系理系問わずノーベル賞級の研究や業績を生むことを秘かに期待してのことです。

数十年後の世界を夢想しながら、いろいろな人と人、人と言葉あるいは考えの出会いが生まれることを楽しみにしています。

話題提供者 宇佐美 文理（人と社会の未来研究院長）  
テーマ 「究極の複製」

主催：京都大学 人と社会の未来研究院  
場所：附属図書館3階共同研究室5  
対象：京都大学学部学生（正規生）先着8名  
使用言語：日本語  
費用：無料  
申し込み方法：下記フォームよりお申し込みください  
\*使用テキストのリンクは申込フォームに記載しています

[お問い合わせ]  
人と社会の未来研究院  
「百万遍談議」担当  
ifohs\_team@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp



京都大学



2023.2.4 [SAT.] 10:30—12:00

2023年2月4日

百万遍談議 開催報告

## 第3回 「究極の複製」

話題提供者

宇佐美文理

(人と社会の未来研究院長／文学研究科 教授)

参加者：6名

[内訳]

1 回生 1 名 (文学)

2 回生 2 名 (文学・総合人間学)

3 回生 2 名 (いずれも理学) \*うち 1 名は留学生

4 回生 1 名 (法学)

### 談議メモ

使用テキストに「芸術作品のコピーをどう考えるか」との記述があったことを受けて、「芸術作品は普遍的価値をそれ自身が持っているのか」というテーマで話は終始持ちきりに。おおよそ文系のみなさんは「持っている」とするっぽう、理系のみなさんは「鑑賞者に依存する」との論調が目立った図式が印象的でした。「普遍的な価値を持っている」とする参加者も、鑑賞者に依存する可能性自体は否定しないものの、対して「普遍的なものとは何か」を提示することは難しく、「持っている」側は苦戦気味の結果となりました。

なお、話題提供者から、「普遍的な価値」に関連して、昔ある先生が美学の定期試験で「夕焼けはなぜあんなに美しいのか」を問題として出していたとの話が紹介さ

れました。会の終了後、その採点方法に関心を寄せる写真好きの参加者からは、農学部にある農場から見た夕焼けが美しく、よく撮影している、とのコメントも。さまざまな切り口から「普遍的な価値とは何か」という難問に挑んだ回となりました。